

北鎌尾根

槍ヶ岳登山・七倉～高瀬ダム～湯俣⑩

1981年 5月6、9、13(日)～15(火)

奥村光信 T14.3.20

装具は10kgとし、一気に登ることにする。

雨衣(ポンチョとセパレーツの2種)
着替(上衣・下着・靴下)
トックリセーター、タオル2枚
電灯・カメラ・定期
オレンジ・キウリ・乾肴
チョコレート・氷砂糖
乾かごう・菓子 右
パン2食分、おにぎり、下
現金3万円、歯ブラシ
(ザイルは不用品、細紐)
救急用品

昼過ぎになると少し
賑やかになり、山の話を
聞きながらまた飲
みなあす。鎌尾根に
登る人は4人と白土さんの
2人だけ、あとは竹村新道
へ行く人である。

湯俣には温泉もあり、夏なら露天
風呂で汗を流すのもよい。ネが着
いたのはまだ9時12分、ガラとして
小屋の宮沢さんだけ、飲食の場所
を借りて、明日に備えてスタミナをつ
けるために肴を出して缶ビールと酒
を飲む。

名無沢の板橋を渡るすぐ左手前に小さな避難
小屋がある。この先はガレがあるのに注意したい。川の
石が礫の上を歩く箇所もあり、コジノ沢にかかる5m
橋を渡りしは行く、送電用鉄柱が見え隠れし
て続く。セバ沢の6mほどの橋を渡って、すぐ左の木
段の巻道を登ると、左側は岩壁となり、崩壊中の
ガレ場の下も横道やエンテ上を歩く。

車道終点からは昔の山道と
なり、中員80センチほどがよ
く整備され、橋も横道も造
られているので有難い。草や
笹に濡れることもなく、硫黄の
臭い、フンポンする道を行く。

高瀬ダムを一望したあと、
水門とダム管理所の間を通
って、高瀬トンネルを抜けると、
左側に慰霊碑があり、このダム
工事の難工事であったことも
想像し、黙礼して通る。

曲ったトンネルを出ると、また小雨がパラッとした。
急ぐこともないので、ここで先にきりを1ヶ食べ、
ポンチョを被って行くことにした。大した雨では
ないが、行きに衣服を濡してはいけな。

まだ雨は止まないが、小寒いので
出発することにした。橋を渡り、長
山ノ神トンネルを出ると七倉ダムが広
がり、548年8月裏銀座コースから
下山したときの、川底を掘削して
いた状況を思い出した。昔歩
いた車道はすべて水面下に没し、
今は高みの見物と言ったより道路に
変わった。

長雨の続く、最後の日を見
計らって名古屋から夜行列
車で来た。信濃大町から
タクシー相乗り、谷間の朝は
まだ暗く、裏銀座に行く人た
ちが次々降りては、朝食の仕度
で忙しい。私も底の下でオに
ギリ1ヶ食べながら、まだ止め
小雨も羨ましく見ていた。
七倉山荘も54年から営業を
始め、大きく立派である。

高瀬ダム分岐点より眺める高瀬ダムは、
満々と水をたたえて明るく広がり、霧雨に
濡れた山影とうつし、絶景の展望である。
昔と知る人は、これほど大きく変貌した
景観に驚きの目を見張るであろう。
山から掘り出された岩石もこのように役立
っている姿を見ると、なんだか嬉しい気持ちに
なり、人間の労力に感謝するものである。

靴の音響くトンネル、神沢・仙沢・源五郎沢の
各トンネルを抜けると、雨が止んでいた。正面には
高々と巨大な石を積み上げたダムの威容に
驚くであろう。車道はこの大堰堤を大
きくハアピル形に登って行くが、北鎌
をやる足慣しのためにも、この石積み
の急登を一気に登った。案外スムーズ
に最上段に達することになった。
ひと汗かいた。

